

理事長・学校長殿

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団
理事長 福田 益和

公
印
省
略

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団
令和5年度 中堅教職員研修会
「学校の経営（SWOT分析を中心として）」
「新任指導力（メンタリング）」
「能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）」
「リスクマネジメント（クレーム対応）」
開催のご案内

平素より本財団事業に対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本財団では、専修学校制度発足以来、独自のカリキュラムに基づき「新任教員研修」を実施し、専修学校における新任教職員の資質向上に努めて参りました。

また、平成24年度より、文部科学省の教育研修活動費補助事業の一環として、「中堅教職員研修カリキュラム」の研究・開発を進めております。これは、新任教員研修カリキュラム修了程度の能力を有する方等を対象に、専修学校教育において、後進の指導等を含め、専修学校教育の振興に尽力することが期待される中核的・専門的な役割を担う中堅教職員の育成を目的としたものです(カリキュラムの考え方及び構成に関しましては、7頁をご参照ください)。

この度、中堅教職員研修会①学校の経営（SWOT分析を中心として）（対面）、②「新任指導力（メンタリング）」（対面）、③「能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）」（対面）、④「リスクマネジメント（クレーム対応）」（オンライン）を開催いたします。

つきましては、詳細は実施要項をご参照いただき、参加を希望される方は7月7日（金）までに Googleフォームよりお申し込みください（定員になり次第、締め切りとさせていただきます。満席時には、当財団ホームページ上でお知らせいたします）。

【お問い合わせ】

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団<略称：TCE財団>

(Association for Technical and Career Education)

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館

TEL：03(3230)4814 FAX：03(3230)2688

令和5年度 中堅教職員研修会 実施要項

【主催】 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団（TCE財団）

【科目名】 ①「学校の経営（SWOT分析を中心として）」
②「新任指導力（メンタリング）」
③「能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）」
④「リスクマネジメント（クレーム対応）」

【対象】 専修学校の中堅教職員（目安：勤続5年程度以上）

【申込期日】 令和5年7月7日（金）

※定員になり次第、締め切りとさせていただきます。満席時には、当財団ホームページ上でお知らせいたします。

【申込方法】 下記URLまたはQRコードより、Googleフォームからお申し込みください。
お1人様につき1回ずつご入力・ご送信をお願いします。

(<https://forms.gle/evH1BkUWWaKeraj8>)



【お振込先】 受講日までに下記口座にお振込みください。各科目の受講金額につきましては、3～6ページをご確認ください。

お振込先

みずほ銀行 九段支店（普通）2386904

一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団

（振込手数料は貴校にてご負担ください）

※研修会当日の現金の受け渡しはご容赦ください。

※同一の学校や法人から受講者が複数名いる場合、受講料を合算してお振込みいただけます。

※受講料の返金は致しかねます。ご欠席の場合は代理の方のご出席をお願いします。

※会員区分によって受講金額が異なります。開催案内が学校様へ書面で届いている場合、貴校は会員校です。

【修了基準】 各科目所定の研修時間を全て受講された方につきましては、本財団より「修了証」を発行いたします。教員の方々だけでなく、職員の方々もぜひご参加ください。

① 学校の経営（SWOT分析を中心として）

【内容・目的】

専修学校は、そのほとんどが設置主体は学校法人であり、主たる収入は、学生生徒等納付金収入によるところが多い。そして、資格志向により専門職業人育成の社会的要請は高く、また、大学等の学校種間・学校間競争は今なお厳しい状況にある。その中で各種統計データを待つまでもなく、2018年度以降更なる18歳人口が減少するという厳しい環境がある。この状況下で、中堅教職員がいかに学校経営に参画するのかが問われている。更にコンプライアンスや内部統制組織の充実の要請、自己点検評価の実質化、学校関係者評価の実質運営、教育課程編成についての外部有識者からのヒアリング実施とその反映、第三者評価の実施等、学内学外の経営にかかる諸問題について対応力を高め、中堅教職員としてふさわしい経営感覚と問題解決能力を身に付け実践能力を高めることの重要性が叫ばれて久しい。本科目の中で、特に経営分析手法の一つでもある「SWOT分析」を使い、想定された課題を元にグループ討議して、その成果についてグループ発表を行う等の演習を実施することにより、学校経営の概観を把握でき、優れた「経営感覚」を身につけることを目指す。

【定員】 24名

【日時】 令和5年7月25日（火）13:00～18:00
26日（水）9:00～17:00（計12時間）

※2日目は、12:00～13:00は昼休み。昼食は各自でお取りください。

【会場】 東京・主婦会館プラザエフ・8階スイセン（対面形式）

住所：東京都千代田区六番町15（<https://plaza-f.or.jp/>）

【受講料】 TCE財団の都道府県支部の会員校 1名 13,500円
上記以外 1名 27,000円

【講師】 学校法人森ノ宮医療学園 理事 安田 実 氏

【お申込後の流れ】

事務局より事務連絡と事前課題、事前送付資料をメールでお送りします。事務連絡をご確認していただき、事前課題にご記入の上、研修会当日にご持参してご来場ください。事前課題は印刷の上ご持参ください。なお、事前送付資料はデータでお持ちいただいてもかまいません。

【タイムテーブル】

予定時間	予定内容
- 1日目 - 12:45 13:00	受付 ○ 中堅教職員研修における「学校の経営」について ○ 自校と自己の紹介 ○ 学校経営の基礎知識 ○ 事前課題の解説と発表
18:00	1日目終了
- 2日目 - 9:00	○ 外部環境の理解 ○ 演習課題についてのグループ討議 ○ SWOTクロス分析の解析と戦略選定 ○ 新学科創設の具体策の提案
17:00	閉会

※タイムテーブルは事情により変更になる場合があります。

② 新任指導力（メンタリング）

【内容・目的】

新任指導能力「新任教職員の指導・育成力を高める」ことを目標とする。中堅教職員（管理職）にとっての役割とは何かを知り、新任（部下）の指導育成のための目標管理や新任（部下）の能力・メンバーシップを引き出すための適切な指導助言ができるようになることを目指す。

具体的には、新任指導育成のための目標管理力／新任の能力を引き出すためのメンタリング力をつけることを目指す。

【定 員】 24名

【日 時】 令和5年8月 9日（水）13:00～18:00
10日（木） 9:00～17:00（計12時間）

※12:00～13:00は昼休み。昼食は各自でお取りください。

【会 場】 東京・主婦会館プラザエフ・8階スイセン

住所：東京都千代田区六番町15 (<https://plaza-f.or.jp/>)

【受講料】 TCE財団の都道府県支部の会員校 1名 13,500円
上記以外 1名 27,000円

【講師】 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
長野支部長野職業能力開発促進センター ポリテクセンター長野
訓練課 就職支援アドバイザー 梅野 文子 氏

【お申込後の流れ】

事務局より事務連絡と事前課題をメールでお送りします。事務連絡をご確認いただき、事前課題にご記入の上、研修会当日にご持参してご来場ください。

【タイムテーブル】

予定時間	予定内容
- 1日目 - 12:45 13:00	受付 ○ メンタリングとは？ ○ メンターに求められるもの ○ メンターの在り方 ○ メンタリングの4つの基本的技術
18:00	1日目終了
- 2日目 - 9:00	○ 1日目の振り返り ○ 総合演習 ○ 今回の学びを新任指導で生かすために
17:00	閉会

※タイムテーブルは事情により変更になる場合があります。

③ 能動的学修（職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習）

【内容・目的】

アクティブ・ラーニングが必要だ、と言われたことがあると思われる。なぜアクティブ・ラーニングが必要なのだろうか。また、アクティブ・ラーニングとは、そもそもどのような学び方なのだろうか。本科目では、アクティブ・ラーニングが必要とされる背景と考え方について学ぶ。人が学ぶプロセスを「学習サイクル」から考え、具体的な日々の授業で何に気をつけて授業をデザインすれば、より深く、学びを促進できるかを具体的な個々の授業実践の中で検討する。本科目自体をアクティブ・ラーニング形式で、授業で使えるようなツールやテクニックを織り交ぜて実施する。これらを通して、「明日からアクティブ・ラーニング型授業をやってみよう」と思えることを目指す。

【定員】 24名

【日時】 令和5年8月24日（木）13:00～18:00

25日（金）9:00～17:00（計12時間）

※2日目 12:00～13:00は昼休み。昼食は各自でお取りください。

【会場】 東京・主婦会館プラザエフ・8階スイセン

住所：東京都千代田区六番町15 (<https://plaza-f.or.jp/>)

【受講料】 TCE財団の都道府県支部の会員校 1名 13,500円

上記以外 1名 27,000円

【講師】 京都大学 教育学研究科 准教授 田口 真奈 氏

【お申込後の流れ】

事務局より事務連絡と事前課題をメールでお送りします。事務連絡をご確認いただき、事前課題にご記入の上、研修会当日にご持参してご来場ください。

【タイムテーブル】

予定時間	予定内容
- 1日目 - 12:45 13:00	受付 ○ アクティブ・ラーニングとは何か ○ アクティブ・ラーニングを促す授業デザイン ○ 学習評価の基礎
18:00	1日目終了
- 2日目 - 9:00	○ アクティブ・ラーニング型授業への「リ・デザイン」 ○ マイクロティーチングのための準備 ○ マイクロティーチング
17:00	閉会

※タイムテーブルは事情により変更になる場合があります。

④ リスクマネジメント（クレーム対応）

【内容・目的】

中堅教職員として、リスクマネジメントに関わることは、学校経営の根本的な問題のみならず、日々の運営の中で諸問題に適切に対応し、解決を図る上で強く要請されている。また、クレーム対応には、原理・原則があり、それを踏まえて行動すれば難しいものではない（その中でも最も重要なのは「顧客（学生・ステークホルダー）の心情を理解してふるまう」ことである）。

本科目の受講者は、クレームの基本概念を理解し、過去の代表的な事例からクレーム対応の手順や留意点を知る事で、専修学校におけるクレームの諸問題に対応力を高め、中堅教職員としてふさわしい問題解決能力を身に付けられることを目標とする。

また、組織によるクレーム対応についても学ぶことにより、自組織のCS（顧客満足度）改善計画や企画策定など、リスクマネジメントについての理解を深めることも目標とする。

【定員】 24名

【日時】 令和5年9月1日（金） 10:00～17:00（計6時間）

※12:00～13:00は昼休み。昼食は各自でお取りください。

【開催形式】 オンライン

【受講料】 TCE財団の都道府県支部の会員校 1名 9,000円

上記以外 1名 18,000円

【講師】 一般社団法人日本経営危機管理協会 認定講師 野関 由味子 氏

【お申込後の流れ】

事務局より事務連絡をメールでお送りします。事務連絡の中に研修会当日インターネット上でご接続いただくZOOM URLのご案内もいたします。

【タイムテーブル】

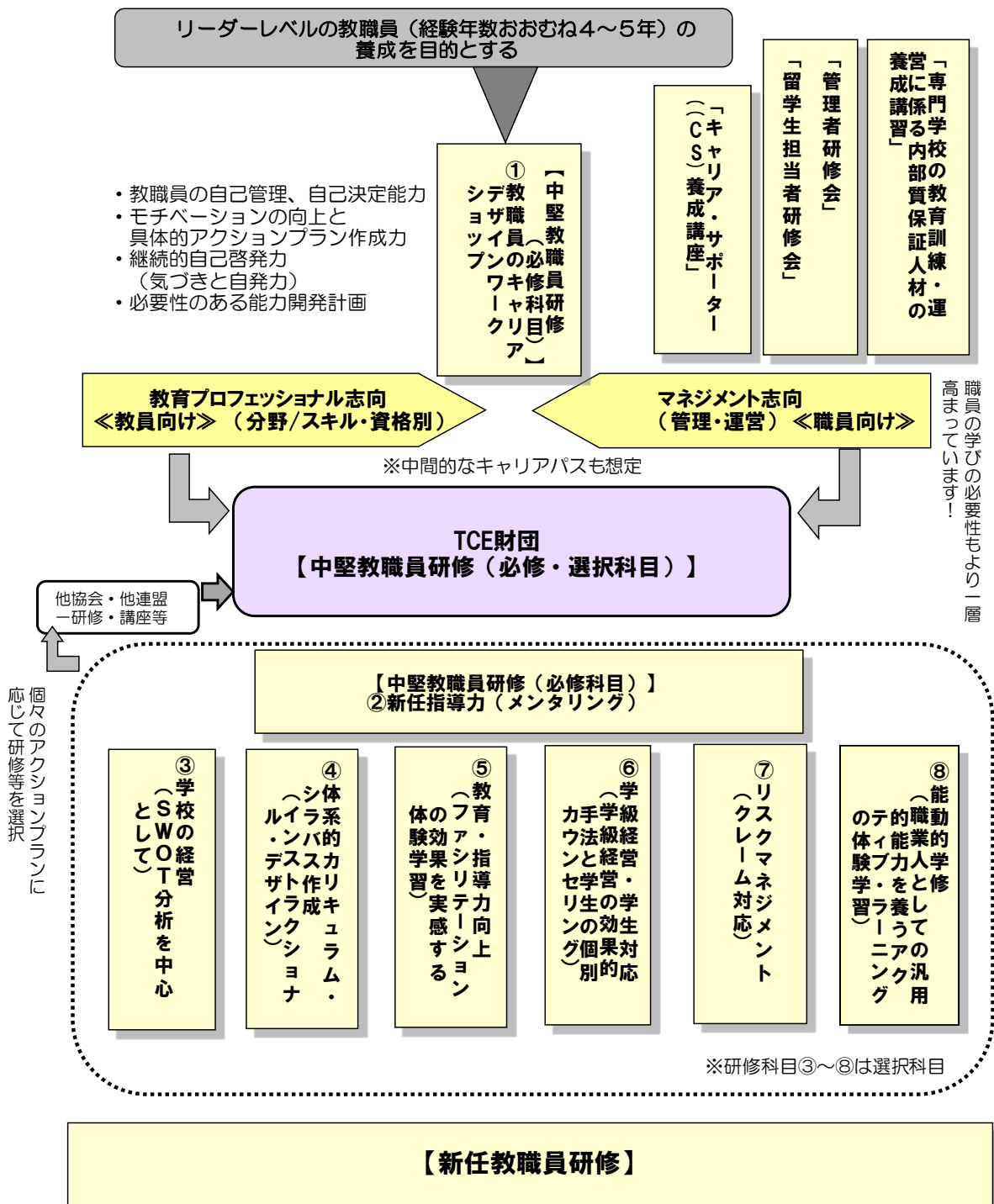
予定時間	予定内容
9:45	受付
10:00	○ 求められる「教職員（学校）像」とは ○ リスクマネジメントについての概論（原理・原則） ○ コンプライアンス ○ 学校リスク ○ クレーム対応 ○ 組織リスクを管理する
17:00	閉会

※タイムテーブルは事情により変更なる場合があります。

TCE財団 中堅教職員研修 カリキュラムの内容

考え方と構成

- (1) 中堅教職員研修は、「①教職員のキャリアデザインワークショップ（必修科目）」をベースとして、キャリアビジョン及び自ら作成するアクションプランに基づくコアとなる研修科目②～⑧（必修=②・選択必修=③～⑧）を用意。
- (2) ①～⑧の8科目以外に、他の団体・組織主催の研修を含め、各教員のキャリア・就業年数等に応じた研修の受講（継続的能力開発）を奨励する。



7科目受講された方への研修成果のインタビュー

中堅教員研修会全7科目（平成29年度時点）を修了された4名に対し、研修成果のインタビューを行った。4名のプロフィール概要は以下のとおり。

修了者	学校分野	性別	年齢	学校勤続年数
A	商業実務	男	48	3年
B	医療	男	43	7年
C	医療	女	38	10年
D	医療	男	38	7年

～気付きと行動変化はありましたか？～

- 学校全体のことや若手職員の育成という点について、受講前よりも意識して行動するようになりました。特に「考えるだけでなく行動する」ということをモットーにし、若手職員のお手本となることはもちろんですが、ベテラン職員の方々からも信頼されるように行動しています。
- 教員としての職務（教育）だけでなく、教員としてどのようなキャリアを歩んでいくかを考える契機となりました。また、自身が与えられた職務をどのような考えで進めて行くかを多元的に考えられるようになりました。
- まず、授業内のグループワークや、個人で参加する研修においては「ファシリテーション」を意識します。また、受講させていただきました「インストラクショナルデザイン」は、次年度のシラバス提出時に生かして見直しを考えております。また、私は防火管理者であることもあり、「リスクマネジメント」について意識することも、同僚に伝える機会も多いように感じます。その他の教科につきましても、テキストを見直したり、用語の確認を行ったりする機会があります。意識面では「キャリアデザインワークショップ」で感じた自身の決意を思い起こすこともあり、貴重な機会であったと認識しております。しかし、日常の雑事に取り紛れて希薄になる瞬間や、浅い知識にとどまり定着していないもどかしさを感じることもありますので継続学習の機会をいただきたいと思います。
- 教職員の面談の際に、今まで以上に「質問・傾聴・観察・伝達」を意識して行うよう、努めてきました。また、質問や伝達といったこちらから発する内容も本研修で学んだものから相談内容に適したものを抽出するように努めました。相手の立場を考慮した上で発言し、相手に答えを導き出させるような対応を自然にできてきたと思っています。個人的には、仕事全体の視野が広がり、専門学校の教職員としての在り方がおぼろげながらも見えてきたような感覚でいます。

～今後、中堅教職員研修会を受講される方へのメッセージ～

- 理解しやすいプログラムもあれば、なかなかすぐには理解できないものもあると思いますが、必ず役に立つ時が来ると信じて受講してほしいと思います。また、様々な専門学校の先生方と交流することで、悩みを共有したり解決の糸口を見い出すことができたり、それだけでも研修に参加して良かったと思うことができます。壁にぶつかって悩んでいる方やスキルアップを目指す方にはとてもすばらしいプログラムになっていると思います。ぜひ全てのプログラムのコンプリートを目指して頑張ってください。
- 中堅教員研修は間違いなく大きな収穫を得られる講座となります。一つ一つを大切に受講されることで確実に成長していけると思います。
- 全ての研修を受講して思うことは、どの専門学校でも抱える問題点・課題点を冷静に振り返り分析できる機会をいただけたのだなということです。研修は元より他校の先生方と利害関係なく率直に意見や情報の交換ができたことも大変有意義でした。